

令和元年度和歌山県文化賞

さか い とし ゆき
酒井 敏行

住 所 京都府京都市
出身地 和歌山県有田郡湯浅町
生 年 昭和28年

◎ 業績及び経歴

昭和28年有田郡湯浅町に生まれる。耐久高校在学中に弟を骨肉腫で亡くしたことをきっかけにがん患者を救うことを目指し、昭和49年に京都府立医科大学に入学。その後同大学院博士課程に進む。

大学院修了後、ハーバード医科大学に留学し、発がん機構の研究を始める。多くの臓器の発がん抑制に関与する代表的がん抑制遺伝子である網膜芽細胞腫遺伝子が、突然変異がなくとも過剰メチル化のみで失活し発がんに至るという新規発がん機構を初めて示したことにより、国際的に高く評価される。また、この研究は、その後の「がんとエピジェネティクス」という極めて重要ながん研究の嚆矢となった。

発がん原因分子のみを標的とすることにより、高い効果を有しつつ副作用の少ない理想的な抗がん剤開発が進められている中、氏は世界で初めて標的分子のどの部位にも結合し、抗がん効果が最も強い薬剤を容易に見いだすことが可能な「RB再活性化スクリーニング」を独自に開発した。この方法を用いて、製薬企業と共同で三剤のがん分子標的薬を見いだした。この中の一つが、新規MEK阻害剤トラメチニブ（商品名メキニスト）である。

トラメチニブは、進行性BRAF変異メラノーマ（悪性黒色腫）の患者に対し、既存薬に比べて著しく高い治療効果を示した。平成25年に、米国で承認されたのを機に、今では、我が国を含め世界80カ国以上で第一選択薬として使用されている。

さらに、トラメチニブはメラノーマ以外にもBRAF変異非小細胞肺癌や甲状腺未分化がんにも著効を示し、第一選択薬として使用されている。これらの実績から、トラメチニブは日本発の画期的新薬として、国際的にも極めて高い評価を受けている。

若き日の志を貫き、多くのがん患者を救済しうる画期的新薬を発見し、世界のがん克服に大きく貢献している氏の業績は誠に多大であり、計り知れない。

■ 現 在

- 京都府立医科大学創薬センター
センター長
- 京都府立医科大学大学院医学研究科
創薬医学 特任教授

◆ 主な表彰歴等

- | | |
|-------|-----------------------|
| 平成5年 | 和歌山県文化奨励賞 |
| 平成7年 | 日本衛生学会奨励賞 |
| 平成20年 | 日本衛生学会学会賞 |
| 平成26年 | 高松宮妃癌研究基金
研究助成金 |
| 平成26年 | 日本医師会医学賞 |
| 平成26年 | 京都新聞大賞・文化学術賞 |
| 平成28年 | 日本がん分子標的治療学会
鶴尾隆賞 |
| 平成30年 | 高松宮妃癌研究基金学術賞 |
| 平成30年 | 日本医療研究開発大賞
文部科学大臣賞 |
| 平成31年 | 日本薬学会創薬科学賞 |
| 令和元年 | 紫綬褒章 |